

【平成23年度 授業改善推進プラン】

板橋区立北野小学校

【国語】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの学年も漢字学習にまじめに取り組み、漢字を正しく読んだり、書いたりすることは一定程度できている。音読や漢字については、授業時間内だけでは練習時間が短いため基礎・基本の時間を活用しているが、まだ十分に力が付いているとまでは言えない。また、習った漢字を文章表現などに生かしていない児童がみられる。 ・読書が好きな児童が多い。表現力については、自分の考えをまとめ、相手にわかりやすく書いたり、話したりすることが苦手な児童が多い。文章から、場面の様子を想像する力が十分とは言えない。色々な経験が不足していることも原因の一つと考えられる。 ・低学年では、スピーチなど発表や発言を意欲的に行う児童が多い。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字と音読については、授業時間や基礎・基本の時間だけでは習得するまでくり返し指導することが難しい。 ・自分の考えや思いを相手に伝える表現力を高める指導の充実を図り、文章力(作文力)をつけることが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活体験の実態に合わせて、授業展開や教材教具を工夫する。 ・基礎・基本の時間の活用の仕方を工夫し、漢字小テストや言葉集め等を継続的に実施することにより、習熟を図る。分からない言葉については、発達段階に応じて辞書を活用するように指導する。 ・音読をくり返すことによって内容の理解を深める。 ・テーマを決めて、話すことの内容を明らかにするような話し方を普段から心がけるよう指導する。 ・文の中に習った漢字を適切に使って書くよう、日頃から指導する。 ・自分の考えを文章で書き表す場を多く設けることや状況に応じて作文指導の授業を設定するなど工夫をする。 ・小学校で日常生活が中心であった学習が中学校では社会生活まで対象が広がっていくので、子どもたちの見方や考え方を段階的に広げ、内容面だけでなく表現の工夫についての考えを発達段階に応じてもたせるようにする。

【社会】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的な事象に興味・関心はあり、自分から進んで調べようとする意欲をもって学習している児童が多い。 ・生活の中の事象とつなげて考えを深めていくことが十分ではない。グラフや表、資料を正しく読むことが苦手な児童や、資料から読み取ることはできるが、それを基に自分の考えをもつまでにはいたっていない児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と身近な生活とを結びつけ、児童に実感をもたせながら学習を進めていくための資料提示の仕方の工夫が課題である。 ・インターネットから得られる資料は、専門的な内容の資料が多く、児童にあう資料を探し出すことが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を提示できない時は、児童の興味を引くよう、視覚的な資料を活用し、児童に分かりやすい提示の仕方を工夫する。 ・図書室や地域の図書館を活用し、児童向けの資料を積極的に借り受け、資料の充実を図る。 ・国語など他教科での学習を生かしながら、資料の読み取りを深めるよう指導する。 ・中学校では、資料を適切に収集、選択、処理、活用しそれらの資料を多面的・多角的に考察し、公正に判断する態度を身に付けさせることを重視している。そのために、小学校では、資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明したりすること、自分の考えを論述する場面などを意図的・計画的に配置する。

【算数】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的ではあるが、学年があがるにつれ学習内容の習得状況の差が顕著になる傾向がある。 ・量の意味や大きさの感覚、数についての感覚の豊かさが十分でない児童もいる。 ・自分の考えを自分の言葉で説明できる児童が少しずつ多くなっている。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の数や量についての感覚を豊かにするための算数的な活動を取り入れる時間がなかなか取れないことが課題である。 ・既習の学習をもとに自分の考えを説明したり自分の考えを様々な方法で発表し表現したりできるような指導形態を多く用いるように工

	夫することが課題である。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・算数TTとの連携を密に図り、TTの役割や指導内容を明確にして個別支援を充実させる。 ・児童の学習状況に応じて、算数的な活動を意図的・計画的に取り入れる。 ・話し合い活動の場を設定し、その活動方法を工夫する。 ・問題解決学習のステップ(課題把握、見通しを立てる、自力解決、集団解決、まとめ)をふまえてすすめる。 ・小・中学校間の円滑な接続に向け、小学校・中学校双方の内容や指導法を理解し、指導法を小・中学校の教員と一緒に考えることで学習指導法の共有化を図る。

【理科】

■児童の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自然とのかかわりが少ない児童もあり、自然事象についての理解や知識の習得に実感が伴わない児童がいる。 ・実験や観察には興味関心をもって意欲的に取り組んでいるが、結果や現象からきまりを見つけない児童が多い。
■指導についての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容と身近な生活とを結びつけ、児童に実感をもたせながら学習を進めていくための資料提示の工夫が課題である。 ・見いだした問題の追究にあたって、自力で解決の見通しをもつことが困難な児童に対する支援がさらに必要である。
■授業改善に向けての具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> ・直接体験がしにくい学習については、映像や模型、パソコンなどの各種メディアを活用していく。 ・観察や実験の視点を明確にし、記録の方法を指導していく。 ・自然の事物や現象の変化について、要因を整理させ、関係を推論できるように指導していく。 ・星の観察、虫の観察といった身の回りで経験できることをじっくり体験させ、実感が伴った指導の充実を図る。 ・小・中にわたり、科学的な見方や考え方を養うために、予想や仮説を立てて観察・実験の計画や方法を工夫して行うとともに、その結果について考察を行う活動を発達段階に応じて行うように指導していく。

【生活】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の周りの自然や人との関わりに気付き、進んで学習に取り組む児童が多い。 ・教師が学習内容を明確に伝えようと意欲的に学習する姿が見られるが、その意欲を持続させながら、活動を広めたり深めたりすることには学習内容によって個人差がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然や人と関わる体験を豊富にし、気付いたことを友達に分かりやすく表現できるよう指導法を工夫することが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動を十分に行わせるとともに、気付きを促す言葉かけや活動内容に対する明確な視点を与えていく。 ・教師が子どもたちに共感したり認めたり支援したりするなど、段階や内容に応じた指導を工夫していく。 ・個々の気付きを共有したり、十分な活動の時間を確保したりするために、国語や図画工作などとの合科的な指導を意図的、計画的に進めていく。 ・幼稚園等での体験や学びと生活科の特質を十分にふまえた上で単元を構成するとともに、合科的、関連的な指導の一層の充実を図る。

【音楽】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に対する取り組み方は、学年・学級によって差はあるが、意欲的に活動をしている児童が多い。 ・全体的には、楽曲に親しみながら楽しく歌っているが、音程を正しくとりづらい児童や、声を出すことに消極的な児童もいる。 ・美しい響きのよさを感覚的に捉えてはいるが、響きをそろえて歌ったり、美しいハーモニーを合唱で創りあげたりすることは、まだあまり出来ない。 ・器楽アンサンブルや合奏の活動を好む児童が多いが、器楽の技能面では個人差が大きく、鍵盤ハーモニカが苦手な児童や、リコーダーの基礎的な奏法の定着が十分でない児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を好む気持ちを大切にさせ、お互いに認め合える雰囲気作りや、のびのびと表現できる音楽的環境作りをさらに充実させる必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自然で無理のない美しい響きで歌うための、歌唱指導の工夫が必要である。 ・器楽では、いろいろな楽器に積極的に取り組める機会を多く設けていく必要がある。また、技能面で十分でない児童への十分な配慮が必要である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年のうちから、曲に合わせて表現する活動を十分に取り入れ、表現することの楽しさや喜びを十分に味わわせる。また、みんなの前で発表したり聴き合ったりする活動を取り入れ、お互いに認め合うことで、のびのびと表現できるような音楽的環境を作っていく。 ・児童が興味をもって取り組める曲を、適宜教材として選択し、表現力を高めるとともに、演奏技能の向上を図る。 ・口の開け方、腹式呼吸、声の響きを常に意識させ、きれいな響きで丁寧に歌い上げる歌唱指導を重ねていく。 ・鍵盤ハーモニカやリコーダーが苦手な児童には、個別指導などを通して自信をもたせる。 ・リコーダーの学習では、息の入れ方やタンギングの仕方などについて、繰り返し復習しながら、丁寧に指導していく。 ・範唱、範奏、鑑賞曲は最良な音・映像を教材として与え、美しい音色や歌声、ハーモニーへの憧れの気持ちや感性を育てていく。 ・小学校・中学校9年間の音楽科の目標および指導内容を把握し、楽しく充実した音楽活動を展開することを通して、一人一人の児童が音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断および表現する力を伸ばすよう系統だてた指導をしていく。

【図画工作】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では、造形活動を好み意欲的に学習する児童が多いが、生活経験による取り組みの差がみられる。 ・中学年では、造形活動に対する興味・関心の高い児童が多い反面、発想を広げることが苦手で、なかなか作品に取りかかれなかったり、意欲をもち続けられなかったりする児童もいる。 ・高学年では、造形活動に対する興味・関心が高く、積極的に造形活動を楽しむことができる児童が多い。一方、技能の差を客観的にみられるようになるにつれ、苦手意識をもつ児童がおり、興味・関心を持続できない場面もある。
---------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね、自分なりの表現を大切にしながら造形活動を楽しむことができているが、作品づくりの進度には個人差がある。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現のしかたが分からなかったり、用具の扱いに慣れていなかったりなど苦手意識をもつ児童のために段階をふんで指導していく必要がある。 ・造形活動の楽しさを実感させるために、興味・関心を持続させるための指導の工夫、苦手意識を感じさせないような題材の工夫をする必要がある。 ・作品の目的を児童が意識しながら取り組めるよう、説明や声かけのしかたを工夫する必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・絵の具の使い方など、基礎的な用具の使い方をくりかえし練習できるように計画を立てる。 ・児童の興味・関心にそった題材の充実を図り、感性を働かせながら意欲的に造形活動を展開できるような題材、素材、用具の準備を工夫する。 ・目標を明確にし、自由で広がりのある造形遊びを多く取り入れる。 ・教科書の作品や友達の作品を鑑賞し、よいところや工夫したところに気づかせ、それを自分の作品にも生かすことができるようにする。 ・高学年では、作品を生活の中に生かせるような題材を取り入れ、完成後も作品を楽しんだり、大切にしたりすることを説明し、理解させながら作品づくりに取り組む。 ・幼稚園などの表現に関する内容を参考にして題材を工夫したり、生活科をはじめ他教科との関連を積極的に図ったりする。 ・中学校「技術科」の内容にもつながることから、「美術科」だけでなく「技術科」への接続イメージをもち、指導の充実を図る。

【家庭】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから「家庭生活」に関心のない児童が多いことが分かったが、授業で生活課題を意識させていくことで、自分の生活に関連づけて考えることができるようになった。 ・調理実習や製作実習を好み、意欲的に取り組む児童が多い。 ・針や糸を使う、ガスコンロを点火する、包丁を使う等、授業で初めて体験する児童が多い。またフライパンや鍋が熱くなることを想定できない児童がいる。
---------------	---

<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活」への関心を高め、自分の生活に関連づけて学習できるように、できるだけ児童の身近にある題材や生活課題を取り上げ、基礎的な知識・理解、技術を身に付けさせる。 ・家庭科で学習した内容を自分の生活に生かしていけるよう、学習したことを家庭で実践できるようにする。 ・針や糸、ガスコンロ、包丁等を家庭科の授業で初めて使うということを考え、きめ細かな指導をする。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「生活」への興味・関心を高めるために、実物見本や実物の量や大きさを提示する。また試し作りや簡単な実験を取り入れる等の工夫をする。 ・学習した内容を、家庭でも実践できるような課題を示し、学習したことを自分の生活に生かしていくように指導する。また、家庭への働きかけを行っていく。 ・家庭科では「調べる」「考える」「工夫する」「できる」を基本とした授業を計画し、児童が問題意識をもち、自ら発見していける学習を展開する。さらに学習の中で、児童が自ら考えた工夫を大切にし、できる・できたという体験を多く経験させる。 ・小学校家庭科と中学校家庭科分野との内容の系統性や連続性を踏まえ、指導計画の見直しと改善を図る。

【体育】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きな児童が多く、意欲的に取り組んでいる。 ・自分の目標や課題を意識せずに運動している児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの運動の特性に応じて、自分の課題をもたせてから運動できるようにし、できたという達成感を味わわせる。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題をもたせ、それを解決するための運動方法を考えさせる。その際、それぞれの運動の特性に応じた課題を設定できるように、児童の発達段階や実態に応じてステップカードやヒントカードなど資料の提示方法の工夫などをする。 ・課題解決に向けて、互いに話し合う活動を取り入れる。 ・小5から中2までの「多くの領域の学習を体験する時期」としての段階を十分に考慮して、成長の連続性が図れるよう指導計画を考慮する。

【外国語活動】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語に普段から触れている児童とそうでない児童で、外国語を積極的に話そうという意欲に差が見られる。 ・ゲームを楽しんでいるが、学習した内容を適切な英語で言うことが苦手な児童がいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての児童が、コミュニケーションを図ろうとするように学習形態を工夫することが課題である。 ・ALTと児童とのコミュニケーションの橋渡しをするための担任のフォローの仕方についてさらに学ぶ必要がある。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの児童も楽しくできる活動を用意し、繰り返し外国語にふれさせる。また、外国語で表現しなければならない活動を多く取り入れ、外国語を話すことに慣れさせていく。 ・ALTとの連携を密に取り、担任の役割分担や支援内容を明らかにする。 ・小学校・中学校の接続をなめらかにするために、小学校では発達段階に応じた能力の素地を育成していく。特に外国語に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができるようゲームや歌を取り入れるなど学習内容を工夫し指導を充実させる。

【総合的な学習の時間】

<p>■児童の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットなどを活用し、意欲的に自分に必要な情報や資料を収集しようとしている。 ・収集した情報や資料を効果的に活用することはできるが、その情報をもとに自分の言葉で表現することは難しい児童もいる。
<p>■指導についての課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態や課題に合わせて資料を収集させたり、課題解決の方法を工夫して調べさせたりすることが課題である。 ・課題のまとめ方について、多様な経験をさせる必要がある。 ・学校外の人材を効果的に活用し、児童の学習指導を進めることが課題である。
<p>■授業改善に向けての具体的な方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の集め方、活用の仕方について段階的に指導する。 ・様々な調べ方やまとめ方を計画的に経験させる。 ・伝え方やまとめ方などの状況に応じて、より有効な情報は何か取捨選択しながら活用させるようにする。

	<ul style="list-style-type: none">・学習の内容に応じて学校外の人材を積極的に活用し、児童の学習活動をより充実させていく。・小・中7年間で育てようとする資質や能力および態度について小学校・中学校の教員で共通理解を図り、小中学校間の円滑な接続を図る。
--	---

○ その他(言語活動の充実等)

・「朝の会」や「帰りの会」でのスピーチ、授業中での少人数グループの話し合いやクラス全体の前での発表など、様々な場面で児童が話をする活動を多く設定する。

・教師が、子どもにわかりやすいだけでなく正しい言葉遣いを日常から用いるように心がける(安易に流行している語は使わず、適切な表現に言い換える)。